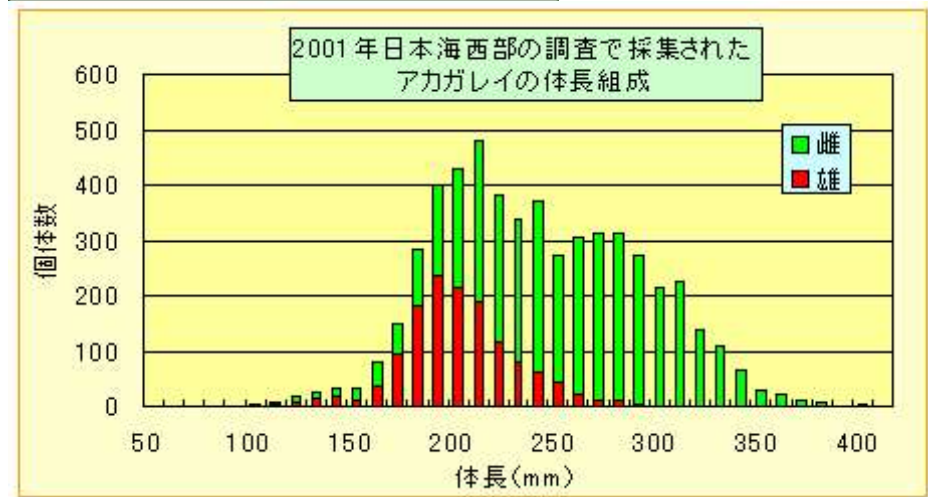


アカガレイ *Hippoglossoides dubius*
日本海系群 担当：日本海区水産研究所



生物学特性

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 不明であるが、半数成熟体長は雌27cm、雄17cm
- 産卵期・産卵場： 2～4月に水深180～200mで産卵。主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在する
- 索餌期・索餌場： 1年を通して、分布域全体（水深150～700m）で索餌
- 食性： クモヒトデを年間通して摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食する
- 捕食者： 不明

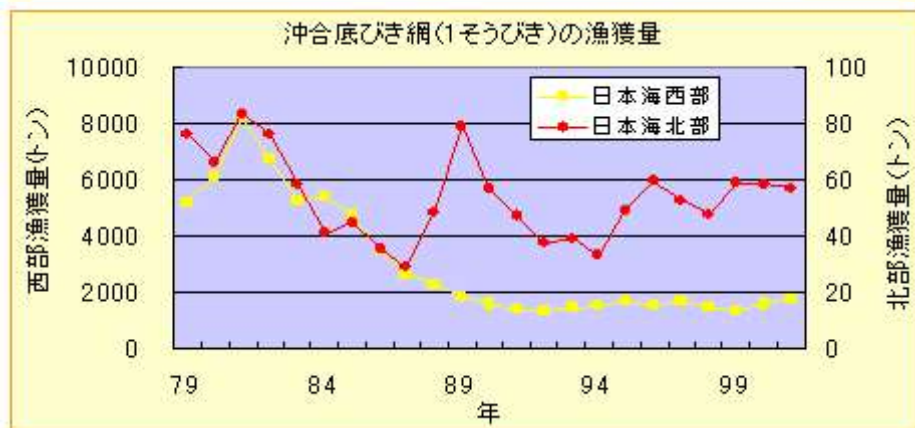
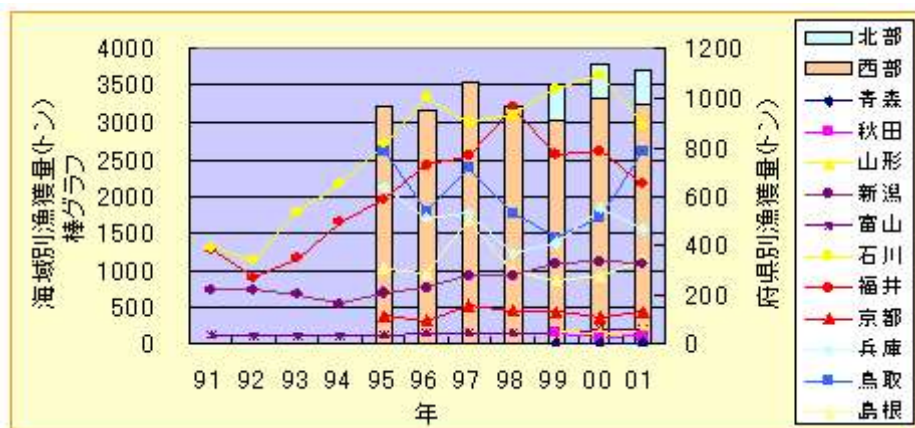


漁業の特徴

アカガレイは日本海および東北地方太平洋沿岸から北海道にかけて生息し、底びき網や刺し網などの漁獲対象となっている。日本海においては水深150-700 mに分布し、沖合底びき網および小型底びき網の主対象種となっている。

漁獲の動向

アカガレイは単一種として漁獲量の統計が取られておらず、最近年を除き漁業の経過を把握するのは困難である。1995年以降の石川県から島根県の漁獲量を見ると、各府県の値は年によりばらつくものの、全体では3000トン台で安定している。とくに、近年漁獲量の多い石川県・福井県では、1990年代前半に比べると漁獲量は2～3倍に増加している。富山県以北では、漁獲量の多い新潟県が増加傾向を示しており、海域全体でも近年は400トン台で安定している。



資源評価法

沖合底びき網漁獲成績報告書の統計値を主に参照するとともに、各海域の漁獲動向などを加味して、資源水準・動向を判断した。

資源状態

日本海西部海域の分布の中心である加賀、若狭海域では、資源が中位水準以上に回復していると考えられる。加賀沖以西の海域全体で見ると、2001年の沖合底びき網の漁獲量は中位となる。また、分布の中心にあたる加賀、若狭海域の沖合底びき網の統計値が過小評価となっていると考えられるため、西部海域全体の資源水準は中位と判断する。日本海北部海域は沖底統計から判断すると高位となるが、日本海全体に占める割合が低いいため、日本海全体の資源水準は中位とする。西部海域全体の総漁獲量は最近5年で横ばいであり、同様に北部海域でも最近3年の総漁獲量は横ばいとなっているため、日本海の資

源動向は横ばいと判断した。



管理方策

資源水準、動向は中位、横ばいとしたが、高水準であった1980年代前半とは数値に大きな隔たりがある。そのため、資源を増加させるためには漁獲圧を現状以下に抑える必要があると考える。そこで、最近年2年の平均漁獲量（確定値である1999年と2000年の値）の9割をABClimitとし、さらにその8割をABCtargetとした。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B Climit	0.9Cave-2yr	3,300	—	—
A B Ctarget	0.8ABClimit	2,600	—	—

資源評価のまとめ

- 近年の分布の中心である加賀（石川県）・若狭（福井県・京都府）海域の漁獲量は1990年代の2倍以上に増加し、資源水準も中位以上に回復している
- 日本海西部海域では中位、日本海北部海域では高位にあり、日本海全体では、最近年の資源状態は安定していると考えられる

管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧を現状以下に抑えること
- 加賀・若狭海域の禁漁区が成果をあげていると考えられることから、本種の生物特性にあった資源管理・保護を行うことは重要である
- 漁獲圧以外の要因による資源の増減の要因解明が必要である